



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043(222) 7207 番

No.

03.5.28 3799

「分割・民営化」の矛盾に蚕食される貨物会社の経営

(5/20 92年度決算概況提示)

損益状況の概要

〈別表1〉

(単位: 億円)

項目	平成3年度	平成4年度	増減
営業収益	2,152	2,161	+9
営業費用	2,085	2,105	+20
営業利益	66	55	△11
営業外収益	11	8	△3
営業外費用	58	62	+4
営業外損益	△46	△53	△7
経常利益	19	2	△17
特別利益	11	8	△3
特別損失	8	3	△5
税引前当期利益	22	6	△16
法人税等	16	5	△11
当期利益	6	1	△5
前期繰越利益	107	113	+6
当期未処分利益	113	115	+2

五月二〇日、JR貨物は九二年度決算概況を提示してきた。その概要は、九二年度を創成期から第二段階へ移行する重要な年度と認識し、安全安定輸送と利用者ニーズに沿った輸送サービスに努め、経営基盤の一層の強化を図るべく事業運営を行ったが、景気低迷の長期化によって、輸送量が前年を下回るなどの影響から厳しいものとなり、経常利益は対前年一七億円減の二億円になったとしている。

(別表一)

しかし問題の根幹は、やはり「分割・民営化」の根本矛盾が、貨物会社の経営そのものを蚕食していること―その解消抜きには、安定した経営基盤も、モデルシフトに準拠した対応策も、「絵に書いた餅」と言わざるを得ない。

具体的に見ても、営業収益については、輸送収入が対前年を下回りつつも、全体では対前年九億円増の二一六億一億円を計上しているが、営業費(退職金受給者増加、鉄道線路使用料単価改訂、新規資産取得諸税・原価償却費増等)が、対前年二〇億円増の二一〇五億円となったことによる営業利益の減少が、確実に貨物会社の経営を圧迫している。

単に、「分割・民営化」に起因する、「レール使用料」ひとつをとっても、その蚕食の度合いは深く色濃く浮き彫りにされている。(別表二)レール使用料はこの九二年度半ばに値上げされた。その結果対前年三〇数億円増加、二〇〇億円にも上っている。

とによる弊害は、社会的要請たるモデルシフトの波の中で、鉄道貨物復権論にまで辿り着きながら、「分割・民営化」の矛盾の前に、糸口なき深遠へと沈殿している。

その矛盾解決(「分・民」見直し)を、全て貨物の労働者へと転嫁(会社間格差拡大、「貨物八〇〇〇人体制」合理化)するJR貨物こそ、「許されざる者」なのだ。

いまこそ、貨物で働く全国鉄労働者は怒り持て、「分割・民営化」体制に断を下さなければならぬ!

貨物会社における総収入に対するレール使用料の対比

〈別表2〉

年度	総収入額	レール使用料	割合
1990年度	2,049.7億円	160億円	≒7.8%
1991年度	2,152.0億円	160~170億円	≒7.6%
1992年度	2,161.3億円	200億円	≒9.3%
1993年度	93年度決算前のため不明	240億円	

無実の石川さんを必ず奪還する！ 部落開放同盟全国連合会が初の 5・23 狭山中央集会を開催！

五月二三日、東京・六本木の桜公園において、部落解放同盟全国連合会の主催による「石川さん不当逮捕三〇周年糾弾、狭山第二次再審闘争勝利、中央集会」が開催された。

狭山差別裁判をめぐる状況は、まさに切迫した状況となっている。本年三月と五月、狭山弁護団が東京高裁に石川さんの無実を明らかにした意見書、補充意見書を提出したことによって高裁はいつでも再審の決定を出せる状況となっているのである。

この間、第二次再審のなかで石川さんの無実を示す新たな証拠が次々に出される中で、政府・司法当局は、狭山裁判が権力の威信が崩れるような差別裁判であるがゆえ、一切事実調べを行なわないという許しがたい攻撃を行なっている。まさに、第一次再審と同様に抜き打ち的な棄却を狙っていることは明白である。

そうした情勢に対し、解放同盟中央が狭山闘争を後景化させてしまっており、部落解放同盟全国連合会は、「狭山闘争に責任をもって生きて石川さんを奪還する闘いを貫徹する。」という決意のもと、三月におけるハングーストライキ、五月全国キヤラパンの闘いを貫徹し、この集会に臨んだのである。また、そうした闘いに共鳴し、九州における組織拡大も勝ちとられている。

集会は、全国連を先頭に七〇〇名の参加のもと、圧倒的な高揚感をもって闘いとられた。発言にたった全国連の仲間が、この間の闘いの成果に、全国連の方針の正しさを再確認し突き進んでいる。さらに、七月―八月の闘いを全国連合会とともに闘い、狭山第二次再審闘争の勝利をかちとろう!